

日時：2018 年 6 月 6 日 (水) 10 時 10 分～13 時 20 分

場所：国際文献社江戸川橋会議室

出席理事：前田恭伸 (会長)、久保英也 (副会長)、村山武彦 (事務局長)、臼田裕一郎、神田玲子、岸本充生、竹田宜人、米田稔

スカイプ参加：青柳みどり、小野恭子

出席監事：片谷教孝

1. 理事会の成立

前田会長より理事の過半数の出席を得て理事会が成立することが宣言された。

2. 前回議事録の確認

村山事務局長より、議事録案の説明があり、修正の後、承認された。

3. 報告事項

(1) 会員の異動および会費納入状況

村山事務局長より書面に基づき報告があり、7-8 人ほどの入れ替わり (入会-退会) があることが報告された。また会費のクレジット支払いについて議論された。一例では、固定費の 1000 円/月、支払いの 3%程度は利用者負担だが、利便性が高く、会員増が期待できるとの意見があった。

(2) 2017 年度委員会活動報告

総会資料に関して確認された。

(3) 国際委員会

前田会長から、書面に基づき、SRA Asia の設立について説明がなされた。

これに対し、SRA Asia を通じた本学会の国際活動の戦略を明確化する必要があるとの意見が出された一方、前田会長からは SRA Asia はインドネシア、マレーシア、ネパールなどのリスク研究者の受け皿で、活動を支援する立場と理解しているという説明があった。

議論の中では、アジアとの共同研究や優秀な人材の受け入れ、福島に関する正確な情報の発信、あるいは会員増強や投稿数拡大など、リスク研究や本学会を取り巻く課題の方策への貢献の可能性が挙げられる一方、実務的な実現可能性や SRA と当学会との関係への波及などについても意見を交換した。

理事会としては、設立には賛同するが、本学会としての関わり方については今後会員を交えて議論する機会を持つこととした。

(4) 2017 年度会計報告

神田理事より、書面に基づき、2017 年度会計報告がなされた。額面上は正味財産が増えているが、その最も大きい原因は学会誌発刊の遅れによる支出の減少であるので、抜本的な解決がなされている

わけではないとの説明がなされた。

(5) 年次監査の報告

片谷幹事より、書面にに基づき、先月行った年次監査において業務執行状況や財務会計状況について適正であると認められたことが報告された。また、会員増強や財務上の留意点、学会活動の強化、学会誌の円滑な発行等について提言がなされた。

(6) メール審議で承認された事項の確認

前田会長から、環境放射能除染学会が開催する国際シンポジウム（2018年7月3-4日）の後援、定期総会における定款変更の提案がメール審議で承認されたことが説明された。

3. 審議事項

(1) 2018年度事業計画ならびに予算の検討

村山事務局長より書面にに基づき、予算原案について審議された。シンポジウム運営費、通信費の削減などが検討され、最終的にはメール審議により予算案を確定することとした。

(2) 2018年度定期総会の検討

村山事務局長より書面にに基づき、アジェンダ案が説明された。現理事による理事会を開催することとし、リスク学事典編集作業の確認を含めた議論を行うこととした。

(3) 2018年度春季シンポジウムの準備状況

竹田理事より書面にに基づき、シンポジウムの趣旨やプログラムが説明された。演者の参加費・懇親会費を無料にすることや準備分担等が確認された。

(4) 2018年度年次大会の準備状況

・スカイプ参加した村上大会長より書面にに基づき、次回年次大会（2018年11月9-11日、福島）の準備状況が説明され、懸案事項について、以下を決定した。

・理事会（11月10日昼休み）、各種委員会（11日の昼休み）開催用の10-20人の会議室を確保する。

・参加投稿システム（10万8千円）の支出に関しては、次年度にもかかる費用（3万円）は大会予算負担、差額（7万8千円）は学会予算負担（5年間償却）とする。

・会場費への支援、大学からの助成金、見学による参加者増も含めた収支案が提示された。例年よりも会場費、旅費が高めになっていることや、地方開催の場合、参加人数が少ないことが多いことなどが指摘され、増収策（企業のブース、当日参加費・懇親会費の値上げなど）を講じることとした。

・表彰に関する資格や表彰業務について確認が行われた。表彰委員会の新メンバー決定は7-8月頃を予定であることを確認した。

(5) 京大防災研の国際共同利用・共同研究拠点の認定に対する学会推薦

久保副会長から書面にに基づき、学会として推薦することが提案され、検討の結果、次の点を条件として承認された。すなわち、他機関からも推薦依頼があった場合に今回の同様の形で検討し、その際、被推薦組織に学会員がいることを条件とすること。

(6) 中期戦略案

- ・久保副会長から書面にに基づき、過去7年間の当学会の収支動向として、定常ベースで40万程度の赤字が続いていることが説明された。この打開策として、中期戦略をベースに個々の方策（イベントによる収益や会員数の増加、学会誌の電子化や旅費の削減）などが提案された。全体の方向性については合意されたが、個別の方策の優先順位や実現可能性に関しては、さまざまな意見が出た。
- ・今日の議論をベースに案を修正するとともに、大会期間中に会員に意見を求める機会を設けることとした。

(7) その他

- ・竹田理事より、リスクマネジャの再登録率が低く、学会として見直す時期であることが説明された。今後、本制度を整理した場合の受け皿や経費についても、引き続き、理事会で検討を行うこととした。
- ・米田理事より、J-STAGE からバックアップ組織の対応（公開か、原則非公開か）について問い合わせがあったことが説明され、現時点では『非公開』で回答することとした。

以上

議事録署名人（署名）

印

議事録署名人（署名）

印